

オルフェの庭から 27



オルフェの庭は、今、ゆりの花が真盛りです。

今回もまた夏の暑い中ではありましたが、お楽しみ会を開催することができました事、感謝いたします。

いつものように、ライアーのアンサンブルを楽しみ、皆さんが持ち寄って下さる、おいしいお料理をいただきながら、それぞれの近況報告などをお話していただく時間を持つことができました。

お話を伺ううちに、それぞれの置かれている状況の変化や、それに伴って、変わってくるライアーとのかかわり、ひいては会としてのあり方

の変化などいろいろと考えさせられました。

オルフェという場も、いつまでも変わることのない永続的な場ではあり得ない。だからこそ、このように皆が集まって会が開けることに毎回感謝しながら、今という時を大事にしたいという思いがわいてきました。

私も小田での生活になじんできるとつれ、小田、北条、筑波山麓に住む友人たちも増え、日本の伝統文化にたずさわる人々との出会いやつながりも増え、自分自身の変化を感じています。

そういえば、今年のオルフェでの夏合宿のある28日は、小田のお不動様のお祭りとお重なります。

小田にやってきたばかりのころ感激した、けっして派手ではないけれど、地元の人々によって神様に奉納されるあのお祭り……。あの小さなお祭りの感激を、ライアーの仲間達と分かち合うことができるかもしれません。オルフェの庭での夏合宿（8月28日29日）・・・どうぞよろしく願いいたします。

根本典子

~~~~ 『魂のこよみ』 ルドルフ・シュタイナー 第17週 <7月28日~8月3日> ~~~~

宇宙の言葉、世界の言葉が語りかける。  
感覚の扉を通じて  
私の魂の奥深くにこの言葉をとり入れることができる。  
「おまえの精神的、霊的深まりを  
私の宇宙の、世界の広がりによって満たせ。  
そしていつかきっとおまえのなかに  
私を見つけだすときが来るだろう」  
(鳥山雅代訳 水声社刊)

宇宙の言葉が語る、いつか  
あなたの内に わたしをみつけるために  
あなたの 精神の 深まりを  
わたしの世界の広がりによって 満たせ と。  
その言葉を わたしは 感覚の門から  
魂の奥底に 幸いにも 導いていけた。  
(秦 理絵子訳 イザラ書房刊)

宇宙の言葉が語る—  
「お前の霊の深まりに  
私の宇宙の広がりを与えれば  
いつか私をお前の中に  
見つけ出せるであろう。」  
この言葉を今  
感覚の門を通して  
魂の奥底にまで私は沈める。  
(高橋巖訳 イザラ書房刊) 現在、ちくま文庫刊